

学校は小さな集団生活の場です。様々な課題等、自分たちで考え、行動し、失敗しながらも成長していく大切な空間でもあります。

中でも、子どもたちの多くが悩むのが人間関係。そして、「いじめ」が存在します。

今号では実際に起きた他校での「いじめ」に関する中学2年生男子の相談内容と相談を受けた職員のメッセージを紹介します。

【中学校2年生男子生徒からの相談内容】

今、ぼくはクラスで孤立しています。クラスで一ダ一的な人が僕を無視したことから始まりました。その人に他の人も合わせているのです。

何かあって無視されたのならまだわかるのですが、そうではないので、誰かと話そうと思ってもまた無視されるのではないかと、答えてもらえないのではないかと、接するのがこわくなるのです。自分にも何か原因があるのかもしれませんが……。まわりの人が笑ったりしていると、僕のことを笑っているんだと思ったりして、すごく不安になります。

きっと無視している人たちは、そういう僕の姿を見て楽しんでいるのでしょうか。それが悔しいです。授業中はまだましなのですが、休み時間や昼食の時間がきついです。すごく長く感じます。ぼくはどうすればいいのでしょうか。

【対応のメッセージ】

やっている側は「軽い気持ち」でやっているのかもしれませんが。「ゲーム」のような感覚でやっているのかもしれませんが。しかし、やられている側は大変ショックです。地獄の苦しみです。その苦しさがわからない。目の前のクラスメートが苦しんでいる心がわからない。恐ろしいことです。わかってやっているとしたらもっと恐ろしい。

人を「いじめる」人間は、そのとき、自分の「心が死んでいる」んです。心が人間じゃなくなっている。野獣になっているんです。ある青年が言っていました。「今日食べた食事のことよりも、中学時代に受けたいじめの記憶のほうが鮮明なんです。」と。

楽しいはずの中学時代が、何とかわいそうなことでしょうか。「いじめ」という文字を見ただけで、ぞっとして吐き気がしてくるという人もいます。

「無視」だって、それは人の心を傷つける「暴力」です。人の心に「クギ」を打ち付けているようなものです。たとえクギを抜いても、クギの穴は残ります。ずっと残ります。とんでもない残酷なことなのです。

この男子生徒は、こうして「相談する勇気」がありました。これはなかなかできないことです。相談することは、全然恥ずかしい事じゃありません。一人で悩まなくてもいいんです。

なぜなら、いじめられている彼は、全然「どこも悪くない」からです。相談の中に「自分にも何か原因があるかもしれませんが」とあったけど、そんなことを考える必要はありません。彼はどこも悪くありません。

「いじめている」側が自分の中の「もやもや」とかをぶつけているだけで、「原因」はいじめている側の「心の中」にあるんです。例えば「暗いから」とか「わがままだから」とか「生意気だから」「目つきが悪いから」「勉強ができるから」「目立つから」とかいろいろな理由をつけるけど、勉強ができるとかできないとか、暗いとか何とか、どんな表情をしようとか、それこそ個人の自由です。人からとやかく言われることではないのです。何も悪くないのです。「いじめられて当然の人」はいないのです。いじめられる側に問題なんかないんです。全ていじめ側の「言い訳」でしかないのです。

嘘をつくことは悪いことですが、「嘘をついた」とか「約束を破った」ことが事実だとしても「だからいじめていいんだ」ということにはなりません。たとえ相手が悪くても、いじめはいけないんです。

相手が嘘をついたら、ナイフで傷つけてもいいのでしょうか。そんなことはありません。相手の性格が悪かったら、殴っていいのでしょうか。そんなことは、絶対ないのです。「いじめ」は暴力です。どんないいわけも理由にはなりません。

「いじめられる側にも原因がある」というのは、いじめの人にとって都合がいいからそう言うのです。また、いじめを「見て見ぬふり」をしている人が、自分の勇気のなさをごまかす「言い訳」です。私はそう思います。

それと「いくじがない」からだと責められ、強くなればいいんだという声を聞くこともあります。それも間違いです。いじめている人間が「強い人間」ですか。そうじゃないでしょう。人を苦しめる人間のどこが強いんですか。人間として一番弱い、一番醜い心ではないですか。暴力人間を「強い」と勘違いしてはいけません。

いじめられている人は、自分が悪いなんて絶対に思わないこと。一人で悩まないで誰でもいいから相談すること、諦めないで一緒に考えてくれる人を探してください。いじめを見て見ぬふりをしてきた人は、勇気をもっていじめをしない輪をつくってください。